

I 目的と方法

I-1. 本研究の目的

富山大学では、平成 19 年度から学生支援センター、アクセシビリティ・コミュニケーション支援室、トータルコミュニケーション支援部門（以下、トータルコミュニケーション支援室と略称）を中核として、高機能発達障害学生に対する包括的な支援を行っている。支援を行っていく中で、高機能発達障害学生は、高校から大学に進学した際の履修システムの違いや教室移動、生活環境の変化などに対する適応の難しさから、入学早期に大学からドロップアウトしてしまう可能性が少なからずあることを経験している。

実際に大学進学の際に必要な連携や入学前後の支援ニーズに関する先行研究例がほとんどないことから、昨年度はまず大学移行期における本人（保護者）、高校、大学の 3 者のニーズ探索を第一の目的として、富山大学に在籍している高機能発達障害学生とその保護者にインタビュー調査を行うとともに、高等学校の教員に対して高機能発達障害生徒の大学進学に関するアンケート調査や特別支援教育モデル校（高校）に聞き取り調査を実施した。

今年度の調査では、引き続きアンケート調査を行いつつも、実際の大学進学相談のなかで聞き取り調査を重点的に行った。さらに高機能発達障害生徒が大学に進学する際の受け入れ体制として何が求められるかを明らかにする目的で、平成 22 年度から富山大学に入学を希望していた高機能発達障害生徒に対する移行支援をアクション・リサーチとして行った。

I-2. 本研究の方法

本研究では、以下の 3 つの調査を実施した。

- (1) 石川県内にある高等学校へのアンケート調査（2 章）
- (2) 福井県内の高等学校の巡回教育相談による「発達障害のある生徒の進学相談」を通じた聞き取り調査（3 章）
- (3) 富山大学における発達障害学生の入学前からの受入体制整備及び高校から大学への移行支援の実践を通じた調査（4・5 章）

これらの調査結果を基に個別に分析を行い、その上で総合的な考察を行った。更に、次年度の研究上の課題の提示を試みた。